

領土「次」に期待」

環境合意を評価

日露首脳会談

北海道洞爺湖サミットで来日しているメドベージェフ露大統領と福田首相の日露首脳会談が8日開かれ、オホーツク海の環境問題や生態系に関する共同調査を両国で行うことなどが合意された。一方で、北方領土返還に関する両国の協議には大きな進展が見られなかった。メドベージェフ大統領の本格的な外交デビューに、具体的な日露関係の進展を期待していた道内の関係者には、期待と失望の声が交錯した。



■環境問題

世界自然遺産の知床と北方4島の海域を調査している北海道大の桜井泰憲教授は「世界の首脳が集まった場で合意されたことをうれしく思う。早く具体的な枠組みなどを確立してほしい」と語った。

極東開発がオホーツク海に及ぼす影響を調査する日露共同研究「アムール・オホーツクプロジェクト」の

日本側リーダーで、総合地球環境学研究所（京都市）

の白岩孝行准教授は「合意内容が末端の現場に浸透するよう望みたい。アムール

川では、対岸の中国の環境汚染の影響が計り知れない。中国も含めた協力体制

も作ってほしい」と訴えた。

また、白岩准教授は「流

は地球温暖化の北のセン

サーだ。北海道、知床世界自然遺産、北方4島の自然を守るためにも、日露の協力は欠かせない」と指摘する。

サハリンの自然保護運動を展開する環境NGO「FOEジャパン」（東京）の

神崎尚美さんは「日露渡り鳥条約の会合が、何年間もロシア側の都合で開かれな

いなど、政府間の約束が履行されていない現実がある。合意内容は立派だが、早くスケジュールを明確にしてほしい」と注文をつけた。

日露を行き来するオオワシの調査・保護活動に取り

組む猛禽類医学研究所（釧路市）の斉藤慶輔代表は「オ

オワシなどロシアで繁殖する渡り鳥は、道内では知床

などに集中して越冬しているだけに、鳥インフルエン

ザの影響は甚大だ。日露の生息地に関する情報交換は

欠かせない」と早急な体制づくりを求めている。

■領土

領土問題で大きな進展がなかったことについて、元

島民団体の千島歯舞諸島居住者連盟の小泉敏夫理事長

（84）（札幌市）は「北海道に来るのだから何か一つで

も『おみやげ』をと思ったが、何も無くて残念だ」と

しながらも、「福田首相は議長国として忙しく、

は議長国として忙しく、

は議長国として忙しく、

会談に臨む福田首相とメドベージェフ露大統領（右手前から2人目）（8日午後5時14分、洞爺湖町のザ・ウィンザーホテル洞爺で）＝代表撮影